月刊 日造協
新春特別号
第342号
2002年1月10日
発行／社団法人日本造園建設業協会（Japan Landscape Contractors Association, Inc.） 発行日／毎月1回10日 創刊／昭和49年6月1日 〒102-0083 東京都千代田区麹町5-3麹町 中田ビル9階 TEL 03（3263）3039 FAX 03（3263）3856 ホームページアドレス http://www.jalc.or.jp/

瑞厳寺「臥竜梅」

新年にふさわしく縁起の良い紅白の梅は、伊達政宗公ゆかりの瑞厳寺「臥竜梅」。昨年はちょうど、伊達政宗が仙台の地に開府してから400年。この臥竜梅も樹齢400年を数える一対の梅の木だ。瑞厳寺は仙台の北部、松島町内にあり、白梅は本殿前庭の左、紅梅は右に位置し、ともに政宗公が文禄２年（1593年）の朝鮮出兵の際、兜を鉢にして持ち帰り、慶長14年（1609年）の瑞厳寺落慶の祝いに植えたものといわれている。

根元から数本に分かれ、地表をはってから立ちあがる幹が「臥竜」の様を呈し、白梅にはその性質が強く現れている。また、臥竜梅は「臥竜八つ房の梅」とも呼ばれ、紅白ともに雌しべ７、８本、雄しべ70、80本で、実は７、８個固まってつけることから「八つ房」とされた。

白梅は樹高８m、根元直径1.5m、紅梅は樹高６m、根元直径1.2m。一時は樹勢が衰えたが回復措置を図り回復。1997年に宮城県天然記念物に指定され、1999年には枝わけした苗木が母国の韓国に戻り植樹された。

花の見頃は、普通の梅よりも遅い４月中旬。左右一対の紅白の梅が咲き競う様を一目見ようと全国から参詣者が集い、八重咲きのボリュームと薫香に魅了されるという。

（写真提供：河北新報社）

謹賀新年

年頭にあたって

6日本造園建設業協会
会長　成家　次男

新年あけましておめでとうございます。21世紀が始まり、慌しく1年が過ぎ、新世紀2年目の正月があけました。いよいよ本格的な新世紀が始まります。会員各位のご健勝と実りの多い年になりますよう心から、ご祈念申し上げます。

小泉内閣も2年目に入り、聖域なき構造改革も核心に迫ろうとしております。中央省庁再編が行われて1年が経ちました。関係団体の再編も取り沙汰されております。長期化している景気の低迷から、国や地方公共団体は財政難に辛吟しております。しかし、我が国の国力、知的レベル、文化、科学的・技術的能力が衰えたわけではありません。むしろ、高度経済成長時代の息つくひまのない状態に比べ、時間的、精神的にゆとりのある今日のほうが、より充実しているとも言えるのではないでしょうか。

新世紀は「環境の時代」と言われております。脇見もできずに走ってきた高度成長時代には気が付かなかった環境の歪みや綻びに、世の人々の目が向けられる今日、国民の皆さんが、何を求め、何を期待しているのかを察知し、それに対して積極的かつ具体的に提案していくことが、我々に課せられた責務であります。我々は工事業者のなかで唯一生き物を扱っている技術集団です。屋上緑化を行うにしても、まちづくりのなかでの調和、美しい景観を考えて、柔軟かつ総合的に行います。屋上に緑のペンキを塗るような仕事はしません。屋上緑化はヒートアイランド現象の改善だけでなく、癒しや潤いといった面でも効果があるから必要なのです。

新年度の政府予算もほぼ固まりつつあります。かつてのようなうなぎのぼり的予算は望むべくもありませんが、冷静に環境の現状を観察し、限られた予算で、今、何をすべきかを考え、提案し、実行に結びつけることが我々に求められております。「国民の皆様がお客様」という気持で国民の声に耳を傾け、国民が求めているものを丁寧に誠実に造り、活用してもらうことが、発注者の評価につながると確信しております。

当協会では、今日の時代が求める多様化したニーズに応えるため、皆で「知恵」を出し合い、ある時は切磋琢磨して技術の向上と経営の合理化・効率化を行い、社会的な責務を果たしてきております。これから本格化する改革の荒波を乗り越えるべく、これまで以上に業務開拓、技術・技能の向上に取り組んでまいります。関係各位におかれましては本年も何卒ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。